



響音 夏

ヒビキと過ごした

帰省編

KANTAI COLLECTION
HIBIKI FAN BOOK

DOJIN
R18
成人向け



まあ数日
だけだが…
まとめて休みが
取れたからね

え？
このまま
里帰り？

そうなんだね

カリ カリ



一人でゆっくり
過ごすのも
悪くない

……



もし邪魔で
ないのなら…

私も一緒に
ついていきたいな



ねえ…司令官

トテトテ

リッ





おおっと...

沼原ーつぬまはらー
お出口は右側です



……ん？
どうした？

……。
なんでも
ないさ……



ご実家は
遠いのかい？

いや…
もうすぐ
着くよ



ああ…
あれだよ



いや…
大豪邸じゃなくて
安心したよ

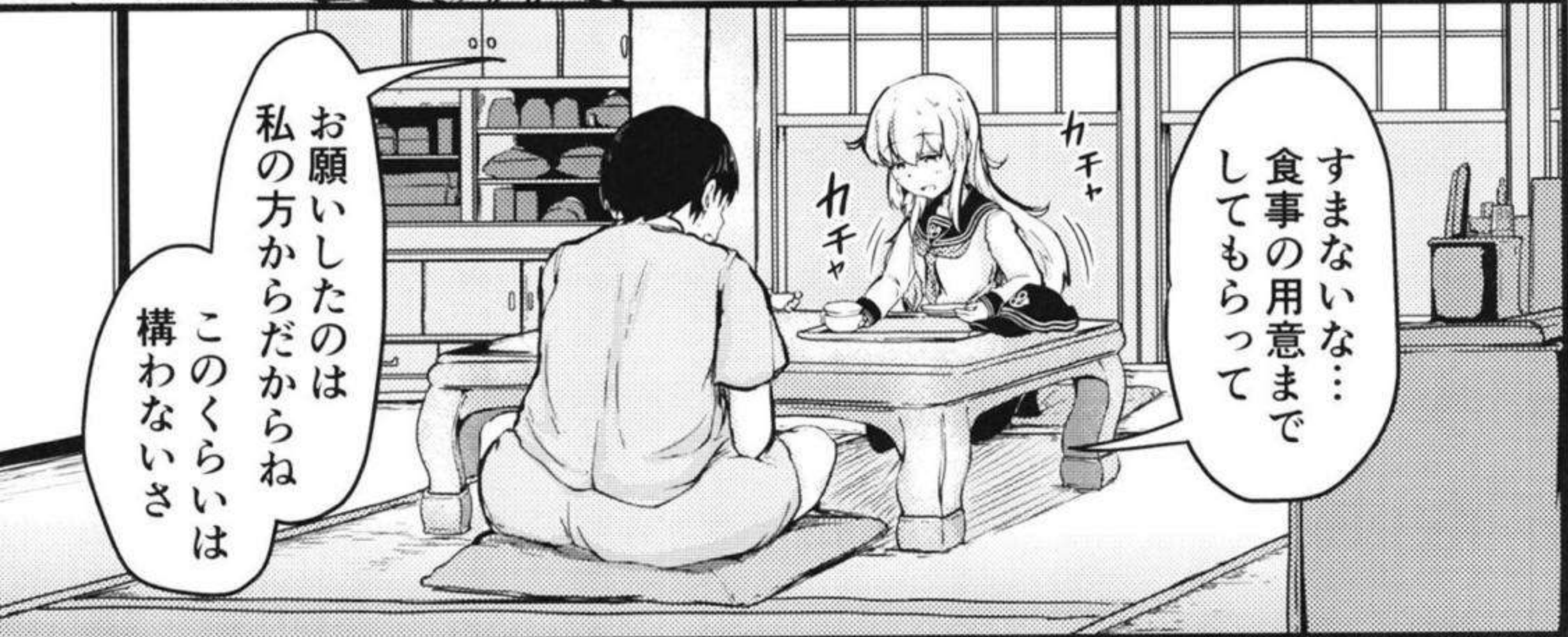
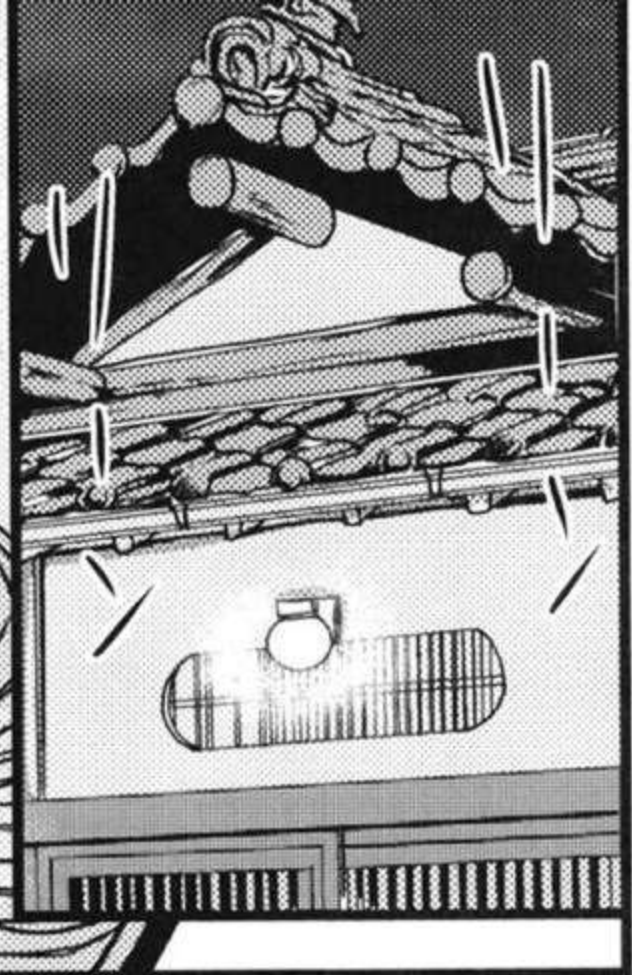
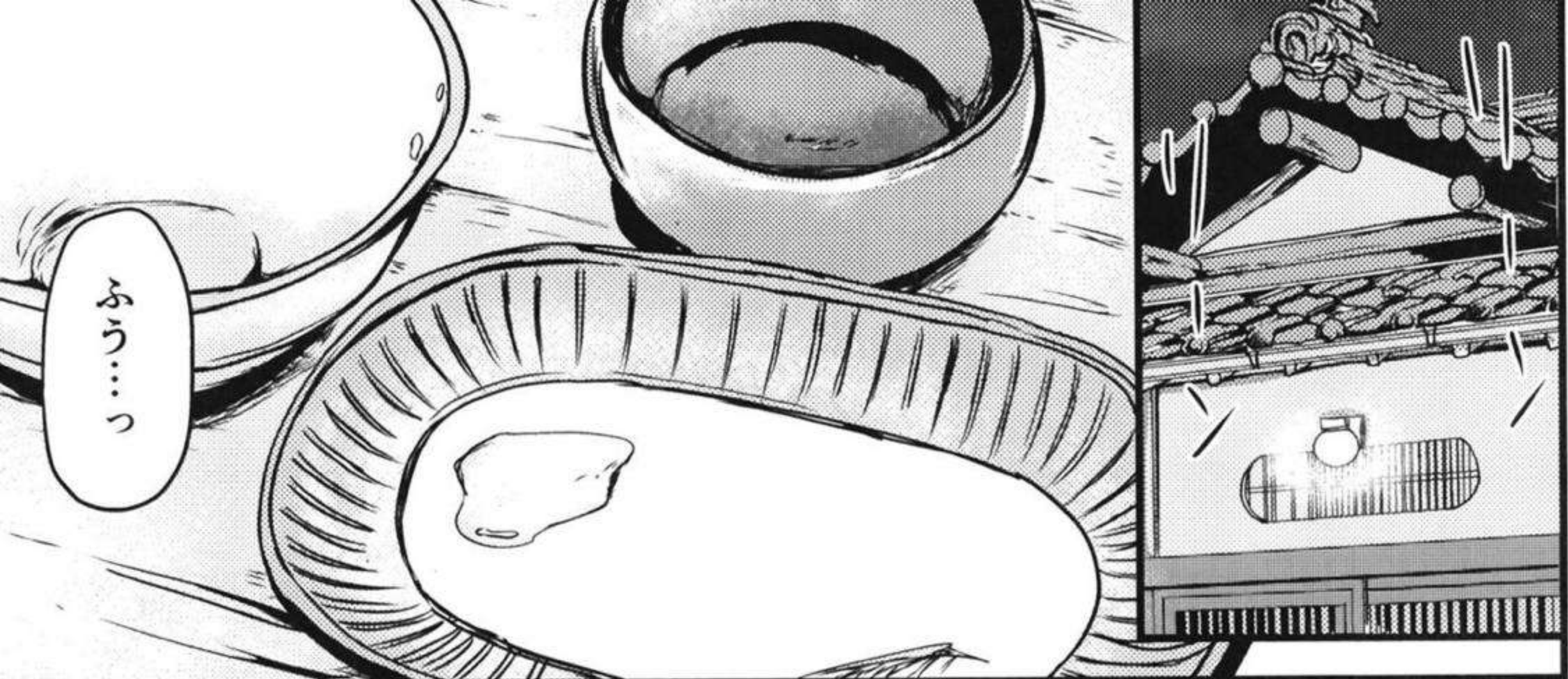
ほう…

カッラカッラ



普通の家だ

変な家を
期待したか？



すまないな…
食事の用意まで
してもらって

お願いしたのは
私の方だからね

このくらいは
構わないさ

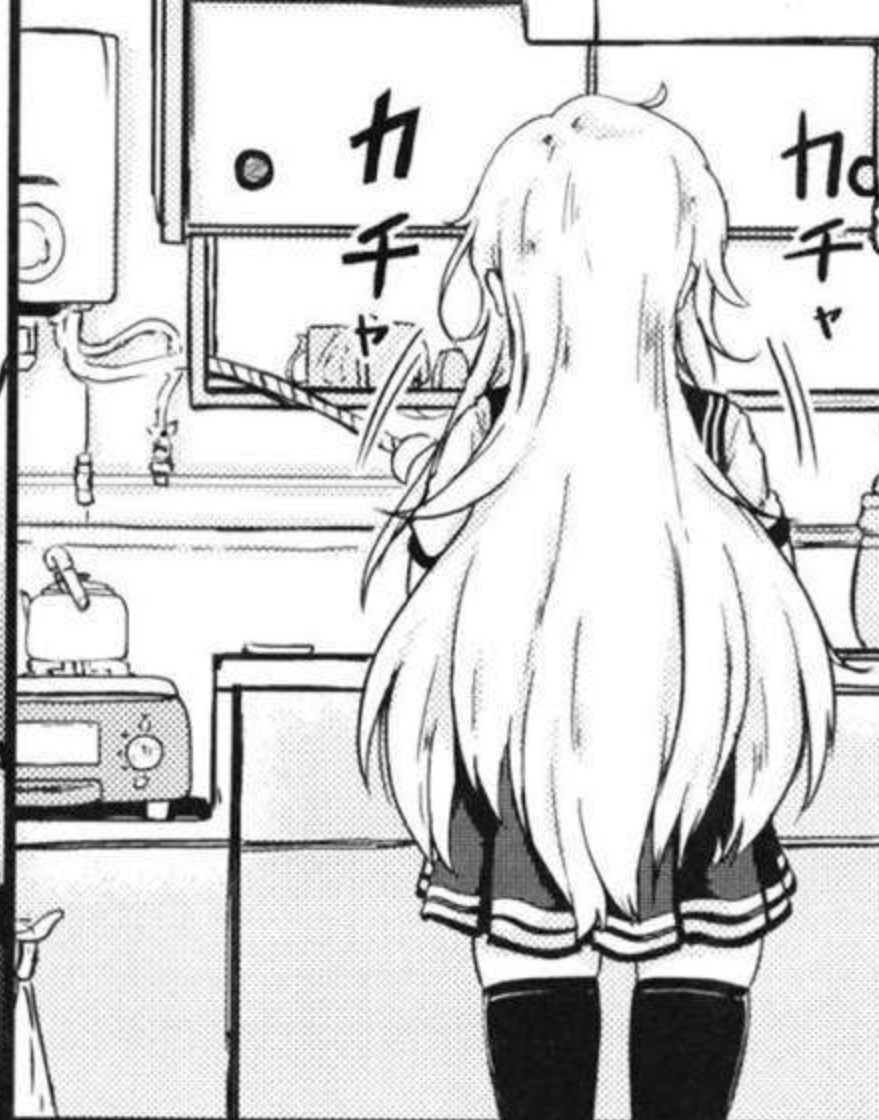


そろそろ
布団でも敷くか

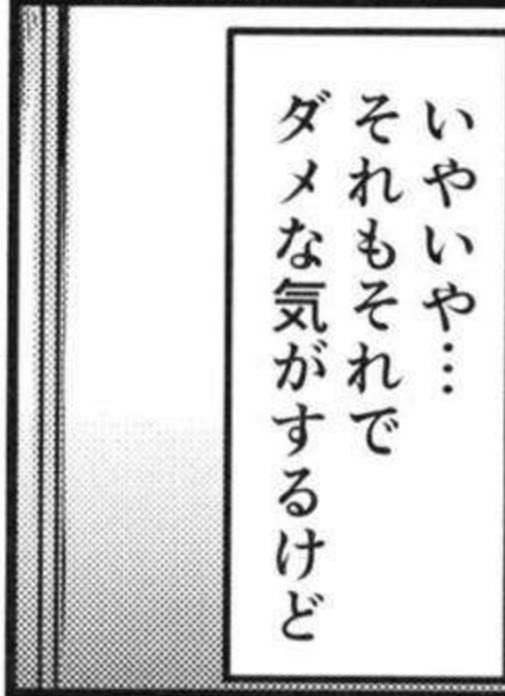
ええっと…
食器洗うね

ああ
頼んだ

アッ!



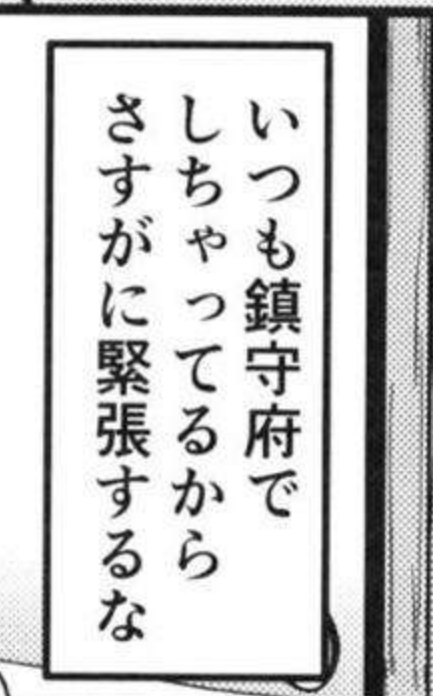
司令官の実家で
初めての夜か…



いやいや…
それもそれで
ダメな気がするけど



いつも鎮守府で
しちやってるから
さすがに緊張するな



さっきのって…
そういう合図
だよ…ね？



暑いから
タオルケットで
大丈夫そうか？



ああ…
ちようど
戻ってきたか

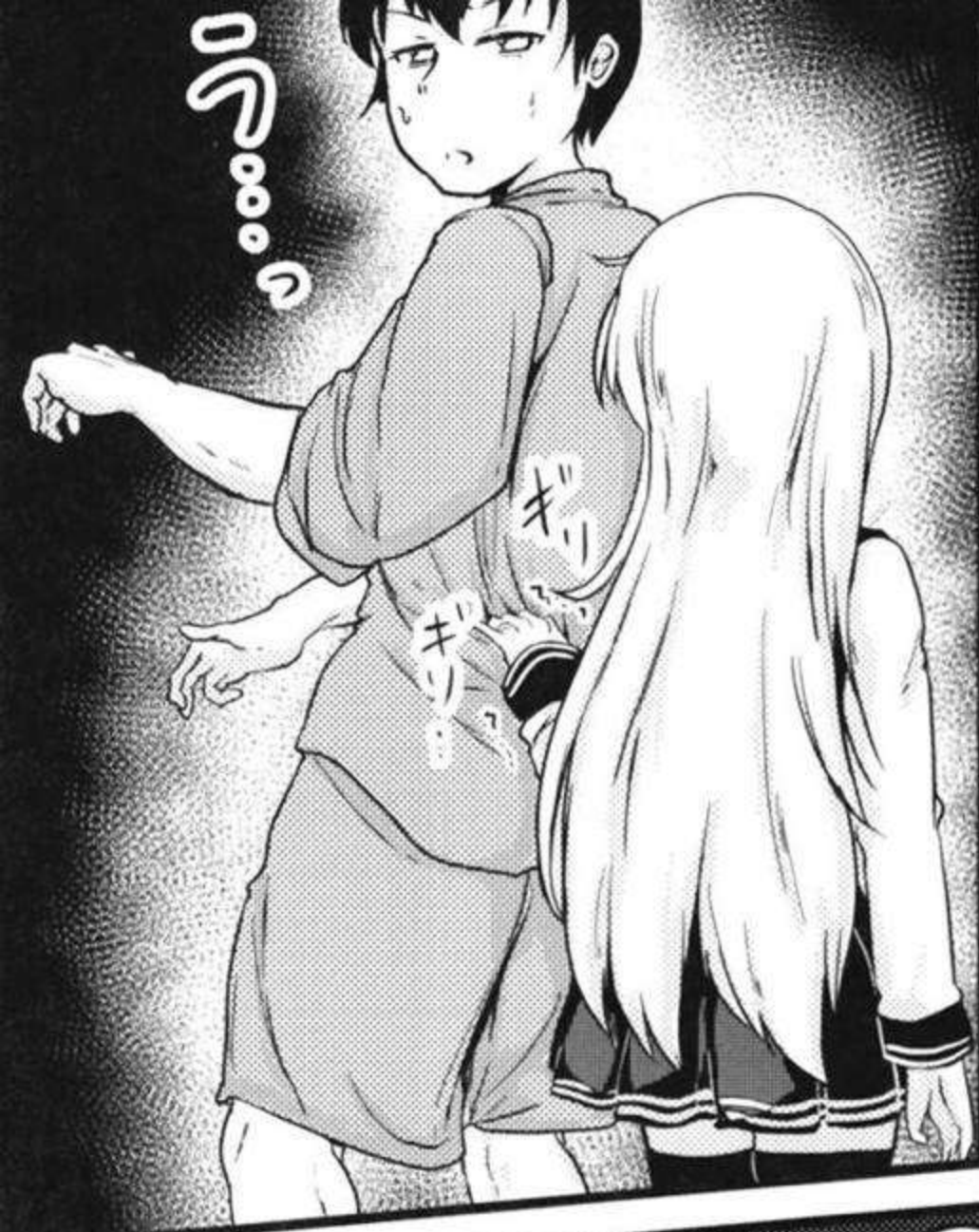


し…司令官
もう入るよ？



おやすみ

じゃあ俺は
隣の部屋で
寝るから…



待って欲しい
司令官…

この状況の
説明を求める



実家でコトに
及ぶというのは…
変に気恥ずかしいと
感じるというか



いや…
申し訳ないが



いいのか？
制服のまままで…

普段だって
そうだよね？

う…っ
確かに…

ん…？
これは…

ズ
ム

ずいぶん…
濡れてないか？

うう…
だって…

司令官に
いつ誘われるのか
待ってるのに…

ガマン
させるから…



響はそんなにエッチなことがしたかったのか…
出発の時からそういうことを考えていたのか？

あッ

そ…
そういう意味じゃないけど…っ

本当か？
少ししか触って
いないのに

もうこんな
エッチなお汁で
ベトベトになってるぞ

ぽっ

そ…っ
それは…

こ…この姿勢
恥ずかしいトコ
丸見えになっちゃう

自分でも
そんなにじっと
見ることに無いのに…





司令官に
奥まで全部...

私のエッチなトコ
見られちゃってる...

そんなに拡げて
じっくり見ないで...

は...恥ずかしい



し...
きれい...か...

あッ

だめっ

だめえ...



ダメって
言ってるのに!!

も...もう!



響…
もう…いいか？

司令官の指で
イっちゃった…

う…
うん…
きて…
司令官…

司令官のお家で

びぢぢ…

今からエッチなこと…しちやうんだ…

はっ
はっ
はっ

はっ
はっ
はっ

はっ
はっ
はっ

トクッ♡
トクッ♡

ブル

ブル

どんどんお汁が
溢れてくるし
グイグイ
締め付けて
くるぞ…

誰かに聞かれる
心配もないから
響のエツチな声
たくさん聞けるな

も…もう…
そんなこと…
わざわざ
言わないでっ

あーっ

グッ
キョッ

グッ
キョッ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

あーっ

普段は鎮守府で
エツチしてるから
声出すの…
ずっとガマン
してるんだよ…っ

あーっ

あーっ



この格好で
ジュポジュポ
されちゃうの…

ぜんぜん
抵抗できなくて

キモチいい声
勝手にどンドン
溢れてきちゃう…

もっと司令官と…
エッチなこといっぱいして

もつと…もつと響わたしのヨト
エッチな秘書艦にして欲しい…♡



響…っ
射精すぞ…っ



うん…!
このまま
中に出してっー!



わたしもっ

いっ
ち
あ
う
る
っ



あ...身動きできない恰好で中に注がれるのって...

意識しちやう...
すごく...
は...
は...
は...



赤ちゃんのものと...

いっぱい...
注がれちゃった



はあ...

身体の内が...
熱い...♡



司令官の体温が...

そのまま私に
伝わってきてるみたい...

ゴホ...

ゴホ...
ドロ...



お酒飲んだ
あとだったし…
ムリさせちゃった？

いや…
大丈夫だ



ん…っ
すまない
司令官

さすがに
重たい…

ふう…



ああ…
ああ…
すごく温かいな
なんだか夢を
見てるみたいだ…



大好き…



ん…



出したのに
元気なまままだね もう一回
続けるかい？

それは…
いいのか？

こうして司令官を
独り占めできるのも
あつという間さ…

どうせ終わりが
来てしまうなら…

私は少しでも
司令官と一緒に
繋がっていたいよ



わかった…
それなら このまま
続けるぞ？

ん…
これは

横向きになってれば
いいのかい…？



この体位だと
動きながらでも
よく見えるな

ふふ…っ
興奮する？

すごいエッチな
音がしてるぞ

んあ

あ

こんな音たてて
エッチしたら
鎮守府ではすぐ
バレてしまうね…

い…いつもは
こんなに水っぽい音
してない
ハズなのに…

いつもと違う
締め付け方だな…
ヌルヌルしてるのに
吸いこまれるみたいだ

あ

あ

あ

あ



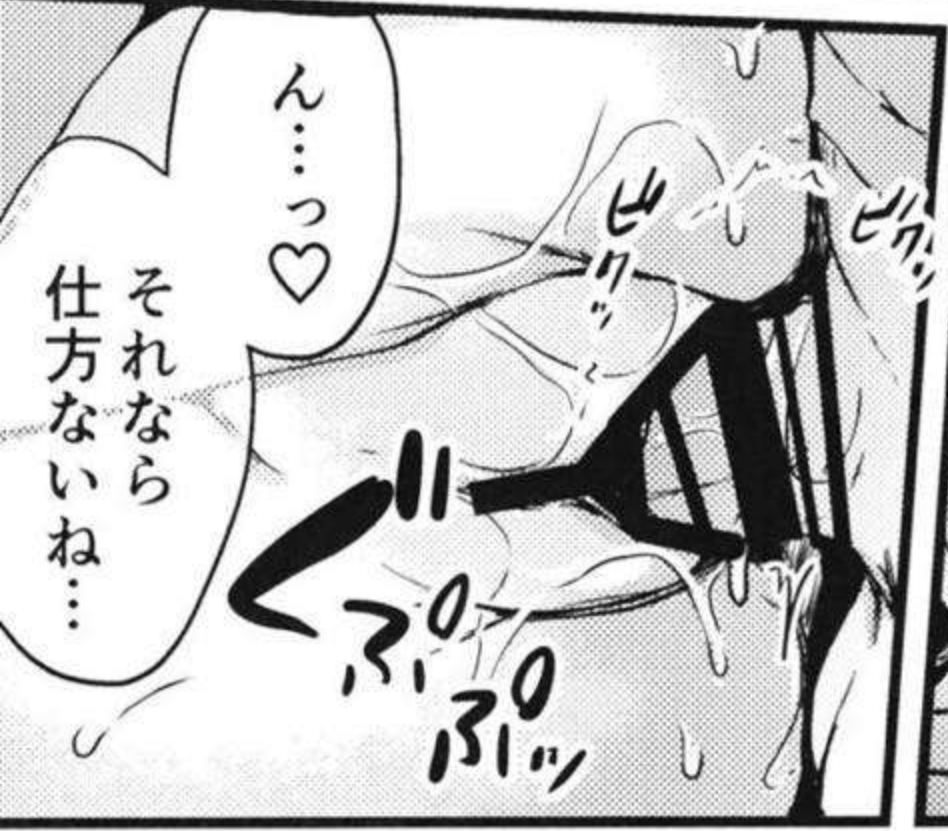
いや…
情けないが

あまり長く…
我慢できそうにない



すまん…
体位変えるぞ

ん…いいけど
辛かったかな？



ん…っ♡

それなら
仕方ないね…



司令官が
キモチよく
なれてるなら…っ
私はいつでも
出してくれて
構わないんだよ？

ガマンしなくても…
注がれちやうの私も好きだから♡

はっ

はっ

はっ

はっ

ズ
チ

ズ
チ

ズ
チ

ズ
チ

ズ
チ

もう…出そうだ…
強めに動くぞ

ドッ
ドッ
ドッ

はッ

はッ

あッ

ああッ

ああッ

ドッ

ドッ

ドッ

腰…掴まれて…っ
パンパンするの…!

いつもより
激しい…っ

カラダ…内側から
ビリビリする…っ

はッ

はッ

うん…っ

私もすごく
キモチいい…!

はッ

さっきみたい
に
いっぱい射精して

こんなに激しく

求められちゃうの
ハジメテ…っ♡

ああッ
ああッ
ああッ

ああッ
ああッ
ああッ

ああッ
ああッ
ああッ

ああッ
ああッ
ああッ

いつもより力入れて
私のお尻つかんでるの…

もしかして司令官も
私と赤ちやん作るの…想像してる？

私と…
司令官の…っ



もう…ガマンできん
出すぞ…響…っ!!

わたし
響の小さい赤ちやんの部屋…
司令官の精子でいっぱいにして…っ!





トッ
トッ
お待ちせ…
司令官

リュックの中身は
制服だったのか

急だったから
代わりの服がなくてね

着替え代わりに
一応持ってきたんだ



ん？
それって…

ち…違うよ！

響の制服は…その
どうせ司令官が
汚すと思って…

身体のサイズも…
響の時より大きいのか？

こうしてじっくりと
見たこと無かったが…

気になるかい？

……え？

実際に触れるのも
大切だと思うんだ…

司令官なら
私は構わないよ？

それに…私も少し
興味があるから

響の時と
比べて

私の性能が
変わってるのか

よいしょ

スペックだけでは
語れないからね

ドキッ
ん…

スツッ

艦娘の事をすみずみまで
知っておくことも

司令官の大切な
お仕事だからね…

ドキッ

ヒラッ



響の時と…
やっぱり
違う…かな…

ど…どうかな
司令官…その…



身体は細いままだが…
装甲は響の時よりも
上がっているか？

んっ…
そうかい？
嬉しいな



だが…
その影響か？
感度まで上がって
しまっているな…



ヴェールヌイに
成長したら…

響の時と比べて
エッチになるのか？

そ…っ！
そんなこと！

ない…
……と思うけど

もう…

私がエッチになっ
ちやっただのは

む〜

司令官がずっと
私にエッチなこと
してるからじゃないか…

カッコカリの前も
これからも…

私はずっと司令官のそばに
一緒に居たいんだ…

それとも司令官は
エッチなお嫁さんは
好みじゃなかったかな？



それに：
二回も私で
出した後なのに

まだこんなに
元気だなんてね

私とのエッチを
期待していたのは

司令官の方じゃ
ないのかい？

精力が強いのは
いいことかも
しれないけど：

こんな状態で
放っておく訳
に
いけないな：



中に出したあと
そのままだったから：

んっ…ヌルヌルして…
さっきよりも楽に…っ

チカラ：
入れなくても

オクまで届くっ♡



着替えた
ばかりなのに
ドロドロだな…

そ…それは！
さっきから司令官が

いっばい私に
出してるから…っ！



でも…っ
いっぱい
エッチして



さっき満足した
はずなのに…

また…オクに精液
注いで欲しくなって

身体が勝手に
反応しちゃうっ♡

あーっ
あーっ

もしかして
本当に私…っ

エッチな艦娘に
なっちゃったのかな



おちんちん
入ってきちゃうと



こんなにキモチいいこと
知っちゃったのに…っ

鎮守府に戻ったら
またガマンしなきゃ
いけないなんて…

ホントは
ずっと司令官と

ここで一緒に
エッチしてたいのに…



司令官…
見えるかい…？

司令官と…
私が…っ

繋がって
キモチよく
なってるトコ…ッ

私のお腹の中で
司令官のおちんちん
ビクビクしてるの

さっきからずっと
伝わってくるよ…

司令官との
つきあいも
長いから…

私もずいぶん
司令官好みに
染まってしまったね

ずいぶんずいぶん

グチッ
グチッ
グチッ



私が上に
乗ってる時の
司令官がすぐ
イっちゃう
動き方：♡

いっばいエッチ
してるから
覚えてしまったよ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

はっ

こうしてギリギリまで
腰を持ち上げて…

一気に入れちゃうの
司令官：好きだよな？

ぬりゅる
ぬりゅる

んん…っ♡

全部私に入ってるの
見えてるかい…？

でも…っ
コレ…私も…



司令官のおちんちんで
自分の穴……っ
グイグイ拡げて……



お腹ミッチリして
いっぱいなの
感じちゃう……ッ

自分が動いて……っ♡
先っぽカラダの奥
コツコツ当ててるのに

司令官に私の
いちばん大事なトコロ♡
ノックされてるみたい……



カラダ
子宮が……



精子欲しがってる……っ♡♡

あ……



あーあー

あー

あーあーあー

ぐわー

あーあーあー

あーあーあー

あーあーあー

あーあーあー

あーあーあー

あーあーあー

あーあーあー

くちゅ

ぐわん

ぽん

ちゅ

また：
いっぱい出したね

もう三回目なのに
こんなに出されちゃうなんて

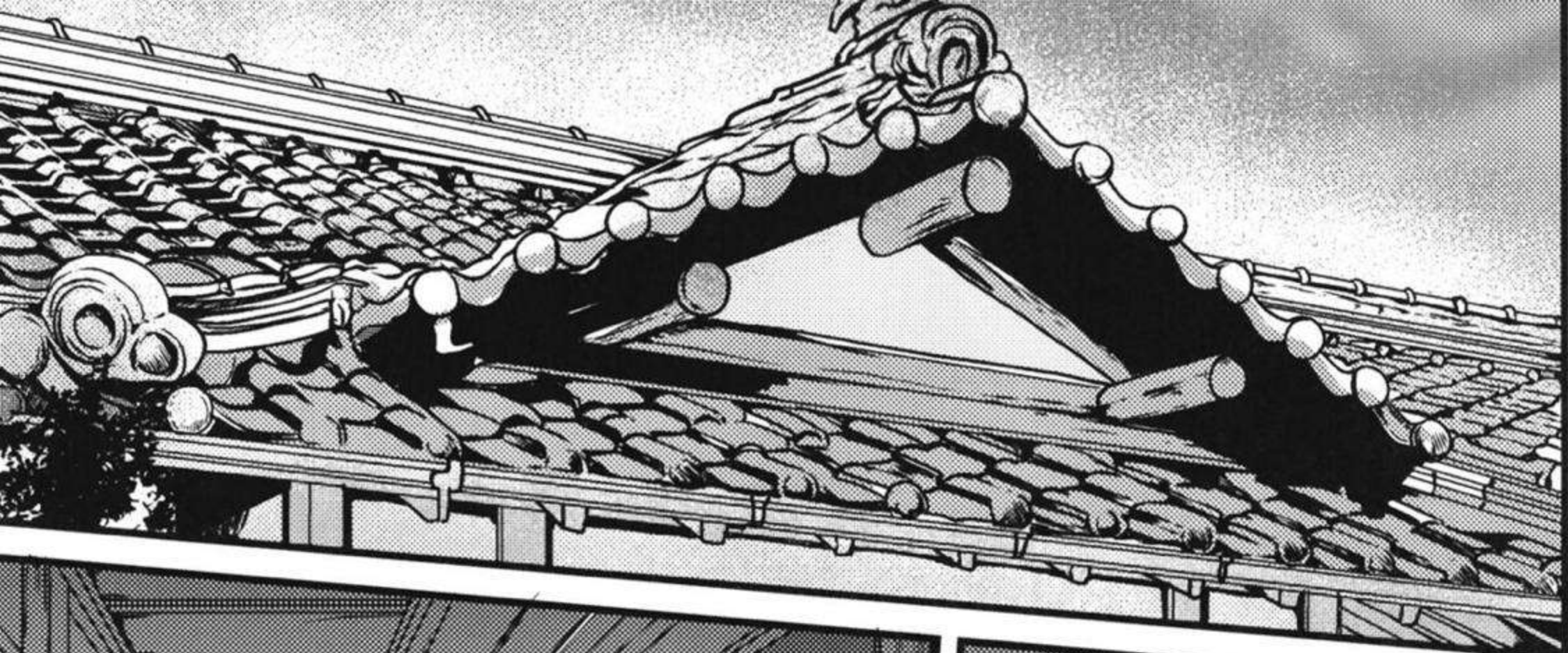
力入れてないと
勝手に溢れてきちゃう...

ほあ
ほら

もう私：

しれいかんで：
いっぱいだ





響…今って…
何時だ？

わからない…

もうすぐ
夜明けじゃ
ないかな…



もう限界だ…

これで終わりに
しないか？

私も疲れた…

その提案に
賛成するよ…



満足したか？

うん…
すごかったよ
きれいかな…

私の膣内も…
もう入りそうに
ないみたい



休みで
帰ったのに
疲れたな…

ははは…

まさかこうなって
しまうとは…



帰りの列車を
遅くにして
助かった

そうだね
少し休もう



悪いが
俺も疲れた
もう抜くぞ…

うん…



いってらっしゃい
司令官……

頑張っ
てね



よし…これで
忘れ物は無いね

カキヤン

忘れ物って…
もしかして
今のか？

どうした
急に？

ドキっと
したかい？

こういう出発も
悪くないと思うんだ

終わり

終わりに

この度は本書をお手に取っていただきありがとうございます。いつもと少しだけ趣向を変えてのお届けです。

といたしますのも、艦これ響同人での成人向け作品の製作を、今回で最後にしようと思っているからです。前シリーズから応援してくださっている方がいらっしゃいましたら、本当に長きに渡ってのご愛顧ありがとうございます。

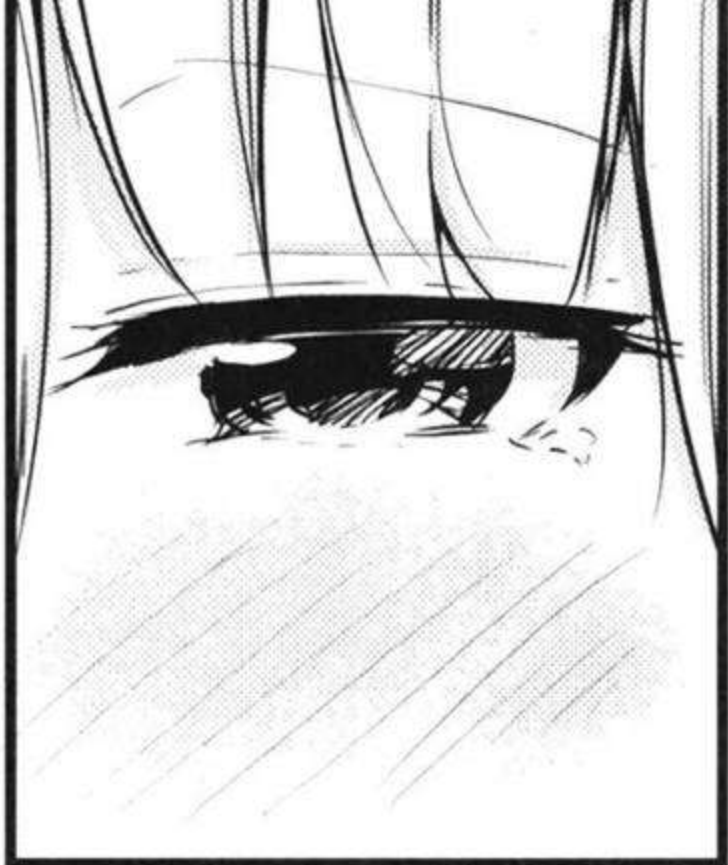
思えば4年前のまさに8/12、初艦これ同人を出して以来、ずっと響を描いてきました。もともとおねショタを嗜む癖の自分が不思議な縁と思いますが、合計したら400Pくらいの量になりました。その間いろいろな出来事があり、語れば長くなること請負ですので…。ここでは割愛するとします。

詳しく聞きたい方は、作者にお酒を奢ってください。という冗談半分はさておき、合計したら実に足掛け8年も費やしていました。僕は満足です。

本音を少し漏らすと、艦これ成人向け本で書くべき線は、前シリーズで殆ど終わったなと思っています。ただ、少々の物語に対する葛藤と、自分なりのカッコカリ後を覗きたいという我儘で、今回の本書まで繋がりました。

とはいえ、成人向けを一旦区切るというだけで、響というキャラクターからの卒業は全くの未定です。成人向けも実はネタは残っているし、別冊では暁と焼鳥を堪能しているので、そちらはまだまだ続きそうな気配です。

長くなりましたが、まずはここを区切りとして。機会があれば、次もお会いできるのを楽しみにしています。一連の作品を描くに当たり応援、支えて下さった全ての方に、この場をかりて感謝申し上げます。



『響と過ごした夏』

- ※発行日 2023年8月12日
- ※サークル名 つきたて工房(Circle.ms : 10356812)
- ※責任者 白蜜モチ(モチオ)
- ※印刷 株式会社サングループ
- ※MAIL nagatonosakebi@yahoo.co.jp
- ※Twitter(X) @mochio0001(成人向け)
@mochio0002(一般向け)
- ※Pixiv <https://www.pixiv.net/users/634813>
- ※スペシャルサンクス シリーズに関わってくれた全ての方

つきたて工房



Kantai collection fan book

Presented by Tsukitate-koubou